

注3

大学番号：168

[平成27年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

山梨学院大学 国際リベラルアーツ学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 山梨学院
平成27年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	教務部 教務課
職名・氏名	キ トウ リ アサ 鬼 頭 伯 明
電話番号	055-224-1312
F A X	055-224-1492
e-mail	n-kito@yotos.ygu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部(平成◇◇年度より変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。
- 3 大学番号の欄については、平成27年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際リベラルアーツ学部

＜国際リベラルアーツ学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 山梨学院

(2) 大学名

山梨学院大学

(3) 大学の位置

〒400-8575
山梨県甲府市酒折二丁目4-5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学部長	(ラクトリン、マイケル・ジョン) LACKTORIN, Michael John (平成27年4月)		
学科長等	(ラクトリン、マイケル・ジョン) LACKTORIN, Michael John (平成27年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成25年度に報告済の内容 → (25)

平成27年度に報告する内容 → (27)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の4年制の学科の場合(平成27年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科 学士(国際リベラルアーツ)	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	80 (-) [0]								0.33 倍	0.33 倍	
志願者数	52 (-) [-]	() []									
受験者数	52 (-) [-]	() []									
合格者数	35 (-) [-]	() []									
B 入学者数	27 (-) [0]	() []									
入学定員超過率 B/A	0.33										

- (注) ・ 数字は, 平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から提出年度までの平均入学定員超過率」は, 完成年度を越えて報告書を提出する大学(「改善意見等対応状況報告書」を提出する大学)のみ記入してください。「設置計画履行状況等報告書」の場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] (-) 27	[] ()							
2年次	/		[] ()						
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	[0] (-) 27	[] ()							

- (注) ・ 数字は、平成27年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

2 授業科目の概要

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
E N G L I S H L I B E R A L A R T S D I S C I P L I N E	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)	1前・後		15		3	2 -3		4			平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)	1前・後		15		3	2 -3		4			平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
F o u n d a t i o n C o u r s e s (基 幹 教 育)	Composition 1 (英作文1)	未開講 4前・後		3		3	2 -3		5			履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Composition 2 (英作文2)	未開講 4前・後		3		3	2 -3		5			履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)	未開講 4前・後		3		3	2 -3		5			履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)	未開講 4前・後		3		3	2 -3		5			履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Introduction to World Issues (国際問題入門)	未開講 4前・後		3			1					履修希望者がいなかったため (27)
	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート)	未開講 4前・後		3			3					履修希望者がいなかったため (27)
	The Art of Making Presentations (プレゼンテーション技術)	未開講 1前		1			1					履修希望者がいなかったため (27)
	Critical and Creative Thinking (批判的・創造的思考技術)	2前		1			1					
	Graduation Research Project (卒業研究)	4前・後		2			7 -8		2			平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)	未開講 1前		12			3	2 -3		4		履修希望者がいなかったため (27) 平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
Career Design 1 (キャリア・デザイン1)	2前		1			2						
Career Design 2 (キャリア・デザイン2)	3・4前		1			2						
Internship (インターンシップ)	3・4前・後			1		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
L a n g u a g e A r t s (英語)	Introduction to Language Concepts (言語概念入門)	1後		3		2						
	Sociolinguistics (社会言語学)	2後		3		1						
	World Englishes (世界の英語)	3・4前		3		1						
	Literature Appreciation (文学鑑賞)	1後		3		1		1				
	Lyric Poetry (叙情詩)	2前		3		1						
	Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)	3・4後		3		1		1				
	Comparative Literature Studies (比較文学研究)	3・4後		3		1		1				
	Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)	3・4後		3		1		1				
	Advanced Expository Writing (英作文上級)	2後		3		3	1	-2	1			平成27年3月 Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退 (27) Shigematsu, Brandon Kenji准教授就任辞退の理由により、教員を追加 (27) 担当 RAFIEYAN, Vahid (准教授) 平成27年6月 提出予定
	English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)	3・4後		3		1	2					
Seminar (Language Arts) (英語演習)	4前・後		1		2							
H u m a n i t i e s L a n g u a g e (人文教養)	Elementary Japanese 1 (日本語初級1)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Elementary Japanese 2 (日本語初級2)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Elementary Japanese 3 (日本語初級3)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Intermediate Japanese 1 (日本語中級1)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Intermediate Japanese 2 (日本語中級2)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Advanced Japanese (日本語上級)	未開講 4前・後		3		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文)	未開講 4前・後		1		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解)	1後 4前・後		1		1	2					
	Public Speech in Japanese (日本語スピーチ)	未開講 4前・後		1		1	2					履修希望者がいなかったため (27)
	Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)	2前・後		1		1	2					
A r t s (芸術)	Art Appreciation (美術鑑賞)	1後		3		1						
	History of Western Art (西洋美術史)	2前		3		1						
	Japanese Art (日本美術)	1後		3		1						
	Traditional Japanese Handicraft (日本の伝統的手工芸)	2前		3		1						
	Comparative Art Studies (比較美術研究)	3・4前		3		1						
	Seminar (Arts) (芸術演習)	4前・後		1		1						
	Workshop: Drawing I (ワークショップ: 絵画実習Ⅰ)	未開講 4前・後		1								履修希望者がいなかったため (27)
	Workshop: Drawing II (ワークショップ: 絵画実習Ⅱ)	2前		1								兼 1
	Workshop: Sculpting I (ワークショップ: 彫刻実習Ⅰ)	1後		1		1						兼 1
	Workshop: Sculpting II (ワークショップ: 彫刻実習Ⅱ)	2後		1		1						履修希望者がいなかったため (27)
Workshop: Traditional Japanese Culture (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)	未開講 4前・後		1		1						兼 2	
Workshop: Calligraphy (ワークショップ: 書道実習)			1		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手				
P e r f o r m i n g A r t s (芸 能)	Western Film & Theater (西洋映画・演劇)	未開講 1前		3			1						履修希望者がいなかったため (27)		
	Japanese Film & Theater (日本映画・演劇)	1後		3			1								
	Manga & Anime Studies (マンガ・アニメーション学)	1後		3			1								
	Film History (映画史)	3・4前		3			1								
	Japanese Traditional Theater (日本の伝統演劇)	2後		3			1								
	Comparative Theater Aesthetics (比較演劇美学)	3・4前		3			1								
	Seminar (Performing Arts) (芸能演習)	4前・後		1			1								
	Workshop: Acting I (ワークショップ:演技実習Ⅰ)	未開講 1前		1								兼1		履修希望者がいなかったため (27)	
	Workshop: Acting II (ワークショップ:演技実習Ⅱ)	2後		1								兼1			
	Workshop: Directing (ワークショップ:演劇監督実習)	未開講 1前		1										兼1	履修希望者がいなかったため (27)
Workshop: Noh Theater (ワークショップ:能実習)	未開講 1前		1									兼1			
H u m a n i t i e s (人 文 教 養)	History of Western Music (西洋音楽史)	2前		3			1						履修希望者がいなかったため (27)		
	Japanese Traditional Music (日本の伝統音楽)	2後		3								兼1			
	Introduction to Music Technology (音楽技術入門)	2後		3			1								
	History of Modern Music (近代音楽の歴史)	3・4後		3			1								
	Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging (音楽基礎:和声、音楽的能力、編曲)	3・4前		3			1								
	Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives (音楽と他のメディア:学際的視点)	3・4前		3			1								
	Seminar (Music) (音楽演習)	4前・後		1			1								
	Workshop: Music Practice I (Improvisation Ensemble) (ワークショップ:音楽実習Ⅰ(即興アンサンブル))	1後		1			1								
	Workshop: Music Practice II (Keyboards) (ワークショップ:音楽実習Ⅱ(キーボード))	2後		1								兼1			
	Workshop: Music Practice III (Choral Ensemble) (ワークショップ:音楽実習Ⅲ(合唱アンサンブル))	2後		1								兼1			
	Workshop: Music Practice IV (Japanese Koto) (ワークショップ:音楽実習Ⅳ(琴))	1後		1								兼1			
	Workshop: Music Practice V (Shakuhachi) (ワークショップ:音楽実習Ⅴ(尺八))	1後		1								兼1			
	Workshop: Music and Creativity I (ワークショップ:音楽と創造性実習Ⅰ)	未開講 1前		1										兼1	
	Workshop: Music and Creativity II (ワークショップ:音楽と創造性実習Ⅱ)	1後		1										兼1	
	Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments (ワークショップ:洋楽器と和楽器のための作曲実習)	未開講 1前		1										兼1	
	Workshop: Interpretative Dance (ワークショップ:創作ダンス実習)	2後		1										兼1	
	H i s t o r y (歴 史 学)	World History (世界史)	1後	3											兼1
		Japanese History (日本史)	2前		3										兼1
		History of Technology in Japan (日本技術史)	2前		3										兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
Humanities (人文教養)	Philosophy, Culture & Civilization (哲学と文明・文化)	2後		3		1						
	History of Western Philosophy (西洋哲学史)	2前		3		1						
	History and Philosophy of Science (科学史・科学哲学)	2後		3		1						
	Creativity in the Sciences and the Arts (科学と学芸における創造性)	3・4前		3		1						
	Comparative Philosophy (比較哲学)	3・4前		3		1						
	Philosophy and Environmental Issues (哲学と環境問題)	3・4後		3		1						
	Seminar (Philosophy) (哲学演習)	4前・後		1		1						
	World Religions (世界の宗教)	3・4前		3							兼1	
	Comparative Religious Studies (比較宗教学)	3・4前		3							兼1	
	Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts (日本武道における精神的側面と伝統)	1後		3		1						
Workshop: Practicing Zen (ワークショップ: 禅実習)	1後		1							兼1		
Workshop: Experiencing Shinto (ワークショップ: 神道体験)	1後		1							兼1		
Social Sciences (社会科学)	Microeconomics (ミクロ経済学)	1後	3			0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学)	2後		3		0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Macroeconomics (マクロ経済学)	2前		3		0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Japanese Economy & Business (日本経済とビジネス)	未開講 1前		3		1						履修希望者がいなかったため (27)
	International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済)	3・4前		3		0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Entrepreneurship (起業・ベンチャー論)	3・4前		3		1						
	Corporate Finance (コーポレートファイナンス)	3・4前		3		1						
	Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長: 理論と実証)	3・4後		3		0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	History of Economic Thought (経済思想史)	3・4前		3		0 +						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤 昌子 (准教授) 平成27年6月 提出予定
	Money & Banking (金融論)	3・4前		3		1						
Japanese Economy & Business (in Japanese) (日本語による日本経済とビジネス)	3・4後		3		1							

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
S o c i a l S c i e n c e s (社 会 学)	E c o n o m i c s (経 済 学) Competitive Strategy (競争戦略) Seminar (Economics) (経済学演習)	3・4後 4前・後		3 1		1 1 -2						平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授就任辞退 (27) 担当 生藤昌子(准教授) 平成27年6月 提出予定
	P o l i t i c a l S c i e n c e s (社 会 学)	2前・後 2前 3・4前 3・4前 2後 3・4後 3・4前 4前・後 3・4後		3 3 3 3 3 3 3 1		1 1 1 1 1 1 1 2					兼1 兼1	
	S o c i o l o g y (社 会 学)	未開講 1前 2前 2前 3・4前 2後 3・4後 4前・後		1 3 3 3 3 3 1		1 1 1 1 1 1					兼1 兼1	履修希望者がいなかったため (27)
	Q u a n t i t a t i v e R e a s o n i n g (数 学)	Math for Liberal Arts (リベラルアーツのための数学) College Algebra (大学代数学) Calculus (微積分学) Statistics (統計学)	未開講 4前・後 未開講 4前・後 2前 2後		3 3 3 3		1 1 1 1					履修希望者がいなかったため (27) 履修希望者がいなかったため (27)
	N a t u r a l S c i e n c e s (数 学 的 推 理 ・ 自 然 科 学)	Integrated Science (科学総合) Integrated Science Laboratory (科学総合実験) Modern Physics (現代物理学) History of Biotechnology (バイオテクノロジーの歴史) Genetics (遺伝学) Genetics Laboratory (遺伝学実験) Cell Biology Laboratory (細胞生物学実験)	未開講 4前・後 未開講 4前・後 2後 2前 3・4後 3・4後 3・4後		3 1 3 3 3 3 1 1		2 1 1 1 1 1 1					履修希望者がいなかったため (27) 履修希望者がいなかったため (27)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
H E A L T H & P H Y S I C A L E D U C A T I O N	Health & Physical Education 1 (保健体育1) (種目：ナンバ式骨体操) (種目：合気道) (種目：柔道) (種目：空手) (種目：修験道)	未開講 +開・*	1			1						履修希望者がいなかったため(27) 兼3
	Health & Physical Education 2 (保健体育2) (種目：合気道) (種目：柔道) (種目：空手)	未開講 +開・*		1			1					履修希望者がいなかったため(27) 兼2

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
9	123	1	133	[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	未開講科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	廃止科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	0 m ²	71,136 m ²	0 m ²	71,136 m ²			
	運動場用地	0 m ²	127,005 m ²	0 m ²	127,005 m ²			
	小 計	0 m ²	198,141 m ²	0 m ²	198,141 m ²			
	そ の 他	0 m ²	57,606 m ²	0 m ²	57,606 m ²			
	合 計	0 m ²	255,747 m ²	0 m ²	255,747 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	山梨学院短期大学と共用		
		36,835 m ² (36,835 m ²)	20,149 m ² (20,149 m ²)	10,867 m ² (10,867 m ²)	67,851 m ² (67,851 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		7 室	10 室	2 室	0 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 2人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				
		国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科		28 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		〔うち外国書〕冊	〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕				点
	国際リベラルアーツ学部	40,471 [9,285] (39,808 [8,633])	96 [55] (41 [0])	2,101 [2,100] (2,101 [2,100])	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)	
	計	40,471 [9,285] (39,808 [8,633])	96 [55] (41 [0])	2,101 [2,100] (2,101 [2,100])	5,208 (4,946)	1,899 (1,248)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		山梨学院短期大学と共用	
	3,984.22 m ²		494席		約31万冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			3,008.77 m ²	山梨学院短期大学と共用 武道館：大学専用	
	4,264.00 m ²		武 道 館					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	330千円	330千円	図書購入費	3,945千円	4,975千円	49千円
	共同研究費等	400千円	400千円	設備購入費	233,147千円	59,289千円	0千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,695千円	1,495千円	1,495千円	1,495千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成27年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(27)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	山梨学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	4	80	—	80	学士 (国際リベラルアーツ)	0.33	平成27年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法学部	4	420	—	1,680	—	1.04	昭和37年度	同上	
法学科	4	220	—	970	学士 (法学)	1.05	昭和37年度	同上	
政治行政学科	4	170	—	680	学士 (政治行政学)	1.04	平成3年度	同上	
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	200	—	800	学士 (商学)	1.03	昭和40年度	同上	
経営情報学部 経営情報学科	4	150	—	750	学士 (経営情報学)	0.96	平成6年度	同上	
健康栄養学部 管理栄養学科	4	40	3年次10	180	学士 (栄養学)	1.22	平成22年度	同上	
大学の名称	山梨学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収定容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会科学研究科 公共政策専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (公共政)	0.87	平成7年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程： 法科大学院)	3	15	—	s	法務博士 (専門職)	0.40	平成16年度	同上	

大学の名称	山梨学院短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称 号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
食物栄養科	2 年	110 人	— 年 次 人	220 人	短期大学士 (食物栄養学)	1.04 倍	昭和23年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
食物栄養科	2	150	—	300	短期大学士 (保育学)	1.15	昭和42年度	同上	
専攻科 保育専攻	2	15	—	30	—	0.93	平成14年度	同上	大学評価・学位授与機構の 認定専攻科（平成14年4月）

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部，学科），大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について，それぞれの学校種ごとに，平成27年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等，「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には，課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお，課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は，法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」，短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては，記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には，標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合，入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし，「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	LACKTORIN, Michael John (64)	平成27年4月	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート) Japanese Economy & Business (日本経済とビジネス) Corporate Finance (コーポレートファイナンス) Money & Banking (金融論) Competitive Strategy (競争戦略) Seminar (Economics) (経済学演習) Graduation Research Project (卒業研究)						
専	教授	ETZRODT, Christian (46)	平成27年4月	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート) Introduction to World Issues (国際問題入門) Social Theory (社会学論) Sociology of Globalization (グローバル化の社会学) Sociological Analysis of Nihonjinron (日本人論の社会学的分析) Cross-Culture Studies (比較文化研究) Seminar (Sociology) (社会学演習) Graduation Research Project (卒業研究) Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ: 政治シミュレーションゲーム)						
専	教授	須賀 等 (63)	平成28年4月	Career Design 1※ (キャリア・デザイン1) Career Design 2※ (キャリア・デザイン2) Internship (インターンシップ) Entrepreneurship (起業・ベンチャー論) Japanese Economy & Business (in Japanese) (日本語による日本経済とビジネス)						

専	教授	RECORD, Kirby Alison (67)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Introduction to Language Concepts (言語概念入門)</p> <p>Literature Appreciation (文学鑑賞)</p> <p>Lyric Poetry (叙情詩)</p> <p>Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)</p> <p>Comparative Literature Studies (比較文学研究)</p> <p>Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>Seminar (Language Arts) (英語演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>														
専	教授	ASHMORE, Darren Jon (46)	平成27年4月	<p>Western Film & Theater (西洋映画・演劇)</p> <p>Japanese Film & Theater (日本映画・演劇)</p> <p>Manga & Anime Studies (マンガ・アニメーション学)</p> <p>Film History (映画史)</p> <p>Japanese Traditional Theater (日本の伝統演劇)</p> <p>Comparative Theater Aesthetics (比較演劇美学)</p> <p>Seminar (Performing Arts) (芸能演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>														

専	教授	OLAGBOYEGA, Kolawole Waziri (46)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Introduction to Language Concepts (言語概念入門)</p> <p>Sociolinguistics (社会言語学)</p> <p>World Englishes (世界の英語)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>Seminar (Language Arts) (英語演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p>														
専	教授	ROZYCKI, William Vincent (65)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)</p>														

専	教授	NILSON, Donald Richard (71)	平成28年4月	Philosophy, Culture & Civilization (哲学と文明・文化) History of Western Philosophy (西洋哲学史) History and Philosophy of Science (科学史・科学哲学) Creativity in the Sciences and the Arts (科学と学芸における創造性) Comparative Philosophy (比較哲学) Philosophy and Environmental Issues (哲学と環境問題) Seminar (Philosophy) (哲学演習) Graduation Research Project (卒業研究)														
専	教授	REED, William Everard (62)	平成27年4月	Critical Thinking & Debate (批判的思考とディベート) The Art of Making Presentations (プレゼンテーション技術) Critical and Creative Thinking (批判的・創造的思考技術) Career Design 1※ (キャリア・デザイン1) Career Design 2※ (キャリア・デザイン2) Workshop: Calligraphy (ワークショップ: 書道実習) Spiritual Dimensions and Traditions in the Japanese Martial Arts (日本武道における精神的側面と伝統) Health & Physical Education 1 (Nanba) (保健体育1 (種目: ナンバ式骨体操)) Health & Physical Education 1 (Aikido) (保健体育1 (種目: 合気道)) Health & Physical Education 2 (Aikido) (保健体育2 (種目: 合気道))														

専	教授	HREBENAR, Ronald John (71)	平成28年4月	Introduction to Political Science (政治学入門) US Politics (アメリカ政治) Japanese Politics and International Relations (日本の政治と国際関係) Global Politics (グローバル政治) Comparative Political Systems (比較政治体制) Seminar (Political Science) (政治学演習) Graduation Research Project (卒業研究) Workshop: Political Simulation Game (ワークショップ: 政治シミュレーションゲーム)						
専	教授	REISMAN, David Alexander (72)	平成27年9月	Microeconomics (ミクロ経済学) Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学) Macroeconomics (マクロ経済学) International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済) Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長: 理論と実証) History of Economic Thought (経済思想史) Seminar (Economics) (経済学演習) Graduation Research Project (卒業研究)	専	准教授	VASHCILKO, Aleksandr (39)	平成27年9月	Microeconomics (ミクロ経済学) Intermediate Microeconomics (中級ミクロ経済学) Macroeconomics (マクロ経済学) International Trade & Economics of Globalization (国際貿易とグローバル経済) Economic Growth: Theories and Evidence (経済成長: 理論と実証) History of Economic Thought (経済思想史) Seminar (Economics) (経済学演習) Graduation Research Project (卒業研究)	平成27年3月 REISMAN, David Alexander教授 就任辞退 (27) (平成27年6月 生藤 昌子 准教授 (新採採用) 変更書提出予定)
専	准教授	當眞 正裕 (45)	平成27年4月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)						

専	准教授	VELASCO, Daniel Ray (41)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)</p>														
専	准教授	FURFARO, Paul Vincent (51)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p> <p>English Communication for the Workplace (職場での英語コミュニケーション)</p>														

専	准教授	SHIGEMATSU, Brandon Kenji (49)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p>	専	准教授	RAFIEYAN, Vahid (36)	平成27年9月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p>	<p>平成27年3月 SHIGEMATSU, Brandon Kenji 准教授就任辞退 (27)</p> <p>平成27年6月 RAFIEYAN, Vahid 准教授 (新規採用) 変更書提出予定</p>
専	准教授	SIGMAN, Alexander Theodore (34)	平成27年4月	<p>How We Listen to Music: Foundations of Music Perception, Cognition, and Acoustics (音楽聴覚・知覚認知と音響学の基礎)</p> <p>History of Western Music (西洋音楽史)</p> <p>Introduction to Music Technology (音楽技術入門)</p> <p>History of Modern Music (近代音楽の歴史)</p> <p>Music Fundamentals: Harmony, Musicianship, and Arranging (音楽基礎: 和声、音楽的能力、編曲)</p> <p>Music and Other Media: Interdisciplinary Perspectives (音楽と他のメディア: 学際的視点)</p> <p>Seminar (Music) (音楽演習)</p> <p>Graduation Research Project (卒業研究)</p> <p>Workshop: Music Practice I (Improvisation Ensemble) (ワークショップ: 音楽実習 I (即興アンサンブル))</p>						

専	准教授	WILDS, Alexander (60)	平成27年4月	Art Appreciation (美術鑑賞) History of Western Art (西洋美術史) Japanese Art (日本美術) Traditional Japanese Handicraft (日本の伝統的工 芸) Comparative Art Studies (比較美術研究) Seminar (Arts) (芸術演習) Graduation Research Project (卒業研究) Workshop: Sculpting I (ワークショップ: 彫 刻実習 I) Workshop: Sculpting II (ワークショップ: 彫 刻実習 II)						
専	准教授	FLACHI, Antonino (43)	平成27年4月	Integrated Science※ (科学総合) Math for Liberal Arts (リベラルアーツのた めの数学) College Algebra (大学代数学) Calculus (微積分学) Statistics (統計学) Modern Physics (現代物理学)						
専	准教授	LASSALLE, Michael Wolfgang (46)	平成27年4月	Integrated Science※ (科学総合) Integrated Science Laboratory (科学総合実験) History of Biotechnology (バイオテクノロジー の歴史) Genetics (遺伝学) Genetics Laboratory (遺伝学実験) Cell Biology Laboratory (細胞生物学実験)						

専	講師	FENTON, Anthony Lawrence (56)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデ ミック・リーディン グ) Expository Research Writing (リサーチ・ライティ ング)						
専	講師	PATTERSON, Donald Glen (39)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデ ミック・リーディン グ) Expository Research Writing (リサーチ・ライティ ング)						
専	講師	COLLINS, Brett Thaxton (46)	平成27年4月	English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A) English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B) Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース) Composition 1 (英作文1) Composition 2 (英作文2) Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデ ミック・リーディン グ) Expository Research Writing (リサーチ・ライティ ング)						

専	講師	BROWN, Jonathan David (30)	平成27年4月	<p>English for Academic Excellence : A (アカデミック英語 : A)</p> <p>English for Academic Excellence : B (アカデミック英語 : B)</p> <p>Academic Study Abroad Preparatory Course (留学準備コース)</p> <p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p>					
専	講師	SPADA, Cynthia Marie (40)	平成27年4月	<p>Composition 1 (英作文1)</p> <p>Composition 2 (英作文2)</p> <p>Academic Reading Across Disciplines (分野横断型アカデミック・リーディング)</p> <p>Expository Research Writing (リサーチ・ライティング)</p> <p>Literature Appreciation (文学鑑賞)</p> <p>Major Themes in World Literature (世界の文学の主要テーマ)</p> <p>Comparative Literature Studies (比較文学研究)</p> <p>Creative Writing Across Genres (領域横断型クリエイティブ・ライティング)</p> <p>Advanced Expository Writing (英作文上級)</p>					
専	講師	今城 淳 (35)	平成28年4月	<p>Elementary Japanese 1 (日本語初級1)</p> <p>Elementary Japanese 2 (日本語初級2)</p> <p>Elementary Japanese 3 (日本語初級3)</p> <p>Intermediate Japanese 1 (日本語中級1)</p> <p>Intermediate Japanese 2 (日本語中級2)</p> <p>Advanced Japanese (日本語上級)</p> <p>Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文)</p> <p>Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解)</p> <p>Public Speech in Japanese (日本語スピーチ)</p> <p>Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)</p>					

専	講師	花城 可武 (46)	平成28年9月	Elementary Japanese 1 (日本語初級1) Elementary Japanese 2 (日本語初級2) Elementary Japanese 3 (日本語初級3) Intermediate Japanese 1 (日本語中級1) Intermediate Japanese 2 (日本語中級2) Advanced Japanese (日本語上級) Professional Writing in Japanese (社会人としての日本語作文) Reading Japanese Newspapers (日本語新聞読解) Public Speech in Japanese (日本語スピーチ) Workshop: Experiencing Teaching Japanese (ワークショップ: 日本語教育体験/観察)						
兼任	教授	原 百年 (46)	平成27年4月	Nationalism & Ethnic Conflict in Asia (ナショナリズムとアジアの民族紛争) Workshop: Fuji Culture (ワークショップ: 富士山と文化)						
兼任	教授	西田 孝宏 (58)	平成27年4月	Health & Physical Education 1 (Judo) (保健体育1 (種目: 柔道)) Health & Physical Education 2 (Judo) (保健体育2 (種目: 柔道))						
兼任	講師	片田 貴士 (34)	平成27年9月	Health & Physical Education 1 (Karate) (保健体育1 (種目: 空手)) Health & Physical Education 2 (Karate) (保健体育2 (種目: 空手))						
兼任	講師	MELZER, Jürgen Paul (55)	平成27年9月	World History (世界史) Japanese History (日本史) History of Technology in Japan (日本技術史)						
兼任	講師	村山 由美 (40)	平成29年4月	World Religions (世界の宗教) Comparative Religious Studies (比較宗教学)						
兼任	講師	LARATTA, Rosario (38)	平成28年4月	Social Policy (社会政策) Methods of Social Research (社会調査方法論)						
兼任	講師	NEWTON, Kristin (66)	平成27年4月	Workshop: Drawing I (ワークショップ: 絵画実習I) Workshop: Drawing II (ワークショップ: 絵画実習II)						

兼任	講師	鶴田 宗慶 (慶子) (78)	平成27年4月	Workshop: Traditional Japanese Culture※ (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)						
兼任	講師	鶴田 一香 (信俊) (78)	平成27年4月	Workshop: Traditional Japanese Culture※ (ワークショップ: 日本の伝統的文化実習)						
兼任	講師	FARNSWORTH, Brett Jonathan (38)	平成27年4月	Workshop: Acting I (ワークショップ: 演技実習I) Workshop: Acting II (ワークショップ: 演技実習II) Workshop: Directing (ワークショップ: 演劇監督実習)						
兼任	講師	佐藤 寛泰 (28)	平成27年4月	Workshop: Noh Theater (ワークショップ: 能実習)						
兼任	講師	仁科 彩香 (34)	平成28年9月	Workshop: Music Practice II (Keyboards) (ワークショップ: 音楽実習II (キーボード)) Workshop: Music Practice III (Choral Ensemble) (ワークショップ: 音楽実習III (合唱アンサンブル))						
兼任	講師	DONAHUE, Timothy Joel (56)	平成27年4月	Workshop: Music and Creativity I (ワークショップ: 音楽と創造性実習I) Workshop: Music and Creativity II (ワークショップ: 音楽と創造性実習II)						
兼任	講師	佐藤 聰明 (68)	平成27年4月	Workshop: Music Composition for Western and Traditional Japanese Instruments (ワークショップ: 洋楽器と和楽器のための作曲実習)						
兼任	講師	吉村 七重 (65)	平成27年9月	Workshop: Music Practice IV (Japanese Koto) (ワークショップ: 音楽実習IV (琴))						
兼任	講師	武井 慧子 (76)	平成28年9月	Workshop: Interpretative Dance (ワークショップ: 創作ダンス実習)						
兼任	講師	樋口星太郎 (35)	平成27年9月	Workshop: Practicing Zen (ワークショップ: 禅実習)						
兼任	講師	七沢 賢治 (67)	平成27年9月	Workshop: Experiencing Shinto (ワークショップ: 神道体験)						
兼任	講師	長谷川 智 (57)	平成27年4月	Health & Physical Education 1 (Shugendo) (保健体育1 (種目: 修験道))						
兼任	講師	中村 明一 (60)	平成27年9月	Japanese Traditional Music (日本の伝統音楽) Workshop: Music Practice V (Shakuhachi) (ワークショップ: 音楽実習V (尺八))						

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成27年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **既に設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成		年齢構成（前年度の状況）	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
11 (7)	8 (8)	7 (5)	0 (0)	26 (20)	10 [△1]	7 [△1]	7 [0]	0 [0]	24 [△2]	65 歳	1 名	— 歳	— 名

- (注) ・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成27年5月1日現在（就任予定の者を含む）の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
- ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成27年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・「年齢構成（前年度の状況）」については、報告書提出の前年度の状況を記載してください。今年度初めて報告書を提出する場合は記入不要ですので、「—」を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	教授	REISMAN, David Alexander	現職であるシンガポール南洋理工大学 (Nanyang Technological University) 人文・社会科学部経済学科教授を平成27年8月末に退職のうえ同年9月付で本学に就任するとの契約であったが、平成27年3月、本人より電子メールにて一方的に就任を辞退する旨の通知が送致された（電子メールには「就任承諾書」に手書きで大きく×印が付されたpdfファイルが添付されていた）。就任承諾に係る契約の一方的な破棄であり、以降、本学は再三にわたり本人及び所属大学に国際電話、電子メール、文書等の複数の連絡方法を用いて遺留、及び就任辞退は契約違反である旨の通知を行ったが、(1) 本人は本学からの全ての通知を無視、(2) 所属大学は「本人に取り次げない」「退職予定はない」との回答に始終、と、一切の回答を拒絶したため、同教授の就任を諦めざるを得なかった。なお、設置認可申請書の同教授に係る「就任承諾書」の法的性格に関しては、就任の内諾を得る際に十二分に説明している。
2	准教授	SHIGEMATSU, Brandon Kenji	現職である米国サウスウエスタン・イリノイ・カレッジ「Southwestern Illinois College」ESLプログラムディレクターを辞して、平成27年4月（開設時）より本学に就任するとの契約であったが、平成27年2月、本人より電子メール及び国際電話にて、家庭の事情（日本国内に居住する親族との関係が悪化し、また係る事実により本学に多大な迷惑をかけることが懸念される）により就任できない旨の通知がなされた。また、本人の就任辞退の申し出と前後して、神奈川県内に居住する同准教授の親族を名乗る方より、本学に対して、本学国際リベラルアーツ学部の認可後に整備したWebコンテンツにおいて SHIGEMATSU, Brandon Kenji の名前を見たが、本人が親族にこれまで与えた迷惑行為に基づき日本には入国させないなどの怪電話が、数回にわたりもたらされている（具体的な電話の内容に関しては、同准教授・親族間のプライバシーの問題もあり省略する）。本学は本人に対し、国際電話、電子メール、文書等の複数の連絡方法を用いて、再三にわたり遺留を行ったが、本人の就任辞退の意思は固く、結果、これを認めることとした。

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>・大学の所見</p> <p>REISMAN, David Alexander教授及びSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の就任辞退の後、速やかに交代教員の公募を行い、結果、REISMAN, David Alexander教授の後任として(1)生藤 昌子氏(52歳)を准教授として、SHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の後任として(2)RAFIEYAN, Vahid氏(36歳)を准教授として、それぞれ平成27年9月就任予定として、平成27年度第2回のAC教員審査(書類提出締切:6月12日(金))の対象として受審することを予定している。</p> <p>(1)生藤昌子氏(52歳)に関しては、就任を辞退したREISMAN, David Alexander教授が担当予定であった全ての科目(「Microeconomics(ミクロ経済学)」「Intermediate Microeconomics(中級ミクロ経済学)」「Macroeconomics(マクロ経済学)」「International Trade & Economics of Globalization(国際貿易とグローバル経済)」「Economic Growth: Theories and Evidence(経済成長:理論と実証)」「History of Economic Thought(経済思想史)」「Seminar(Economics)(経済学演習)」「Graduation Research Project(卒業研究)」)を担当することとして、AC教員審査を受審したいと考えている。なお、従前のREISMAN, David Alexander教授の就任予定年月と同時期の就任として予定しているため、授業科目の運営上の支障はないと考えている。また、教授であるREISMAN, David Alexander氏の後任を准教授としたのは、後述「6 留意事項等」の「開設時の留意事項2」としてご指摘いただいているとおり、経済学分野においても、設置計画上の教員が、既就任のLACKTORIN, Michael John教授(学部長)の64歳と、REISMAN, David Alexander教授の72歳と、2名ともに高齢で、年齢構成が高齢に傾斜していることに鑑みたものである(設置基準上の専任教員数及び教授の数は、この交代計画においても遵守されている)。また、生藤氏は女性であることから、女性教員の割合を増加させることにもつながると考えている。</p> <p>(2)RAFIEYAN, Vahid氏(36歳)に関しては、就任を辞退したSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授が担当予定であった全ての科目(「English for Academic Excellence: A(アカデミック英語:A)」「English for Academic Excellence: B(アカデミック英語:B)」「Academic Study Abroad Preparatory Course(留学準備コース)」「Composition 1(英作文1)」「Composition 2(英作文2)」「Academic Reading Across Disciplines(分野横断型アカデミック・リーディング)」「Expository Research Writing(リサーチ・ライティング)」「Advanced Expository Writing(英作文上級)」)を担当することとして、AC教員審査を受審したいと考えている。なお、従前のSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授の就任予定年月が平成27年4月、RAFIEYAN, Vahid准教授の就任予定年月が平成27年9月と差異があるものの、平成27年4月の入学者数が入学定員80人に対し27人と少なかったこと、27人全員が日本人であり、単位修得まで他の科目の受講を制限される「English for Academic Excellence: A(アカデミック英語:A)」ないし「English for Academic Excellence: B(アカデミック英語:B)」のみの履修となっており、平成27年度前期は、正規生はこれら2科目以外の授業科目を履修していないところから、平成27年9月の就任予定としても、授業科目の運営上の支障はないと考えている。</p> <p>・学生への周知方法</p> <p>4月5日(日)より7日(火)までの期間に開催した本学部開設時の入学者に対する新入生オリエンテーションにおいて、LACKTORIN, Michael John教授(学部長)より27人の新入生全員に対して、(1)REISMAN, David Alexander教授及びSHIGEMATSU, Brandon Kenji准教授がそれぞれ就任を辞退したこと、(2)2名の後任に関しては速やかに公募の質や水準を低下させない者を補充すること、(3)2名の教員の就任予定年月を平成27年9月として予定しているものの平成27年度前期(4月~8月)において授業運営上の支障がないこと、(4)意義のある場合はLACKTORIN, Michael John教授(学部長)が直接に聞き取りを行うことを説明した。結果、全ての学生がこの教員の交代予定に対し同意している。なお、前述(4)に係る申し出を行った学生はいなかった。</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>1. 担当単位数が過多と思われる教員がいることについて、「アカデミック英語：A」及び「アカデミック英語：B」の担当を予定している教員の負担が大きいと分析した上で、それらの科目は日本人学生のみを対象とした科目であり、さらに「アカデミック英語：A」については選択科目であることから実際の開講数は申請書上の計画よりも少なくなるとして、実際の教員負担は大きくないという説明をしている。しかし、それらの科目の実際の開講数の見込みなどが示されておらず、また、仮に実際の開講数が申請書上の計画より少なくなった場合にどの教員が担当から外れるかなどの詳細な説明がなされていないことから、申請者の説明には不明瞭な点が残る。さらに、「冬期特別授業期間」に行われる補習授業の負担についてはこの教員負担計算に考慮がなされているか不明瞭である。そのため、実際に見込んでいる科目開講数や開講数に応じた担当者の割り振り、補習授業の負担等について詳細な分析を行い、教員の負担が過度にならないように適切な体制を整えること。</p>	<p>留意事項</p>	

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>2. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p style="text-align: center;">留意事項</p>	<p>教員組織（専任教員）の構成が定年規定に定める退職年齢を超える教員の割合が比較的高い現状を踏まえ、専任教員の補充が必要となった場合には、カリキュラムの構成と教育水準を維持することを前提として、比較的若い教員の採用に努める所存である。平成27年度においては、就任予定の英語担当の専任教員1名と経済学担当の専任教員1名の計2名が就任を辞退するに至っているが、これら専任教員の補充についても、設置計画と同じ内容の授業科目を同様の水準で担当できることを前提として公募のうえ、それぞれ30代の候補者についてAC教員資格審査を申請することとしている。(27)</p>	<p>完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員が担当するカリキュラムの区分については、継続性を担保するため、開設4年目に後任の教員を公募する計画である。(27)</p>
---	---	---	---	---

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 学生の英語学習において、「言語学習アドバイザー」の役割は非常に重要であると思われることから、学修目標が実現できるよう、確実に実施することが望ましい。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>認可時の計画では、言語学習センター (Language Acquisition Center: LAC) に「言語学習アドバイザー」として2名の専任職員を配置する旨を記載したが、本学部における英語学習において、同センターの役割が非常に重要であることを踏まえ、言語学習センターには、このほか1名の専任職員 (事務職員) を配置し、認可時の計画よりも多い計3名を配置することにした。なお、「言語学習アドバイザー」は2名ともに日本人で留学経験を有し、うち1名は国内の高等学校での英語教育の経験を有する者である。また、2名ともにグローバルコミュニケーションに係る専門職学位を有している。認可時の設置計画に比して1名の増員となった事務職員についても日本人であるが、海外の大学 (アメリカのリベラルアーツカレッジ) において学士の学位を取得し、帰国後、国内の法科大学院に進学のうえ法務博士 (専門職) の学位を取得した高度な英語コミュニケーション能力を有する者である。(27)</p>
---	---	--	---

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 履修モデルにおいて、留学前に主専攻に関する科目の履修が少ないと思われることから、主専攻に関する専門的な科目をより多く留学前に学ばせるようにするなど、留学中及び留学後の学習とも併せて体系的・有機的な教育とならう、留学前の教育についても充実させることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>留学前の学修では、「Composition 1 (英作文1)」「Composition 2 (英作文2)」など英語による授業を受講するために不可欠な授業科目の履修が必要となることから、履修上限単位数の関係上、履修することが可能な授業科目数(単位数)は限られてしまうが、一部の必修科目の現在の配当学期を見直すことで、学生が留学前に主専攻分野の授業科目を履修する機会を増やすことを検討している。具体的には、必修科目である「World History (世界史)」を2年後期に配当しているが、これを2年前期から履修できるようにすることで、留学前の2年後期には主専攻分野に関連した授業科目を現状よりも選択しやすくすることを検討している。(27)</p>
---------------------------	--	--------------	---

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 教育課程における「数的推理・自然科学」科目の位置付けについて教養的に学ぶ補助的科目との説明だが、設置の趣旨に記載している教育課程の概念図では主たる教育課程の柱の一つとして表現されているように見えることから、学生が誤解を招かないようガイダンス等で説明するとともに必要に応じて概念図を修正されることが望ましい。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>本学部において、主専攻となる分野は、「演習 (Seminar)」が開講されている8つの分野 (①英語 (Language Arts)、②芸術 (Arts)、③芸能 (Performing Arts)、④音楽 (Music)、⑤哲学 (Philosophy)、⑥経済学 (Economics)、⑦政治学 (Political Science)、⑧社会学 (Sociology)) であることは、入学時のオリエンテーションの際に学生たちに説明している。その際に、「数的推理・自然科学 (Quantitative Reasoning & Natural Sciences)」が主専攻領域ではなく「演習 (Seminar)」科目が配置されていないことについても確認しているが、次年度以降の在學生 (第2年次以上対象) のガイダンスにおいても誤解が生じないように繰り返し説明を行うことにする。特に、今年度の入学者に対して第1年次後期が終了した直後に実施する平成28 (2016) 年度第2年次生ガイダンスにおいては、主専攻分野とアカデミックアドバイザーの選択について説明することになるので、上記の点を改めて確認することとして計画している。(27)</p>
---	--	--	---

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 入学者選抜の時点で学生に対して「本学部での学習に必要な基礎的な英語力と英語の学習能力」を求め、それを判定するのに適切と考える入試方法を実施するとのことであるが、客観的な語学力を担保するためにも、今後、数値的基準を設けるなど、アドミッションポリシーの明確化を検討することが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>本学部の教育課程では、授業を履修しながら段階的に卒業研究の作成を進める「カリキュラム横断型作文プログラム (Writing-Across-the-Curriculum Program ; WAC)」を採用している。このため、アドミッションポリシーに掲げた「本学部での学修に必要な基礎的な英語力と、英語の学習能力」についても、英作文の能力や文法の運用能力を確認する必要があり、通常の英語能力試験で測定される能力のみに依拠して入学者選抜を行うことは回避すべきであると考えている。その上で、本学部が入学者に対して求める英語能力の内容については、より具体的な表現でアドミッションポリシーを説明できるよう、引き続き検討することにする。(27)</p>
---------------------------	---	--------------	---

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 「アカデミック英語」の単位を修得できなかった学生のために行われる補習授業について、本来正規授業内で修得すべき単位を追加的に認めるのであれば、それにふさわしい適切なレベルで実施し、安易な単位認定が行われないようにすること。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>必修科目である「アカデミック英語B (English for Academic Excellence : B)」は、学術英語として求められる各能力（リーディング (Reading) ・ライティング (Writing) ・スピーキング (Speaking) ・リスニング (Listening)) をバランス良く修得することを目指しており、実際の授業は、リーディング (Reading) ・ライティング (Writing) ・スピーキング (Speaking) ・リスニング (Listening) ・コンテンツベース学習 (Content-Based Learning) ・英語運用能力試験実践 (Testing Practice) の各単元に分けて実施している。単位を修得できなかった学生を対象とした補習授業については、「アカデミック英語B」と同内容として、各人が苦手とする単元の能力を補うための反復学習の場として運営する。このため、全ての補習授業は「アカデミック英語B」を担当する専任教員が、学生個別の状況を鑑みながら実施する。このように、「アカデミック英語B」で習得すべき内容を繰り返し学習させることを目的として通常の授業と同内容の学修成果を求めるものであるから、安易な単位認定が行われることとはなく、補習の後、「アカデミック英語B」の到達目標に達することができなかった学生については、翌年度（次学期）に再履修を求めることになる。 (27)</p>	
---	---	--	---	--

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 長期の留学となるため、現在準備しているサポート体制について、より万全な体制となるよう普段のフォローアップを行うことが望ましい。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>緊急時の対応窓口となる本学の国際交流センターに、平成27年度より、英語による対応が可能なバイリンガル職員1名を人事異動により追加配置した。この職員は、日本人であるもののアメリカにおいて12年にわたる長期の在留経験を有する、極めて高い水準の英語力を持つ者である（平成26年度末までは教務部教務課において国際リベラルアーツ学部の設置認可申請事務に従事していた）。これまで、国際交流センターにおいては、センター長（教員が兼務）を含め3名の英語バイリンガルスタッフを擁していたが、この職員の異動により、計4名の体制とした。また、本学部には、平成27年4月の開設に合わせて、学部に関する事務を専門に取扱う「国際リベラルアーツ学部事務室」を開設（組織編制は本学教務部内の一課である）のうえ職員6名を配置したが、全員が英語による業務に対応が可能なバイリンガル職員とした。このように長期の留学を踏まえ、日常的な連絡業務や緊急時の連絡において、海外大学等とのコミュニケーションには支障がない体制を整備した。（27）</p>	<p>本学部の在学生在が交換留学に出発するまでに、認可時に計画した学生に対する事前の指導を徹底するほか、留学先となる協定大学とも事前の情報交換を開始し、学生たちの送り出しまでに万全の体制を整える計画である。（27）</p>
---	--	--	---	---

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 養成する人材像として「異文化に対する親しみと寛容の精神」を掲げ、また、異文化を「特定の国や社会（地理的範囲）の歴史や伝統を念頭に置いたものではなく、他者が有する自らとは異なる背景（国籍、民族、宗教など）に基づく価値観や思考様式、規範、コミュニケーションの手段・方法を指すもの」ととらえているとのことであり、それに対応する教育内容としては海外留学及び学生寮における日本人学生と外国人学生の共同生活を設けていると思われる。しかし、複数の言語を背景に持つ留学生が想定され、また、異文化を上記のようにとらえているのであれば、海外留学や学生寮だけでなく、教育課程においても「異文化理解」等、異文化社会を学ぶ視点を含む授業科目を設け、養成する人材像に対応した教育課程の充実を図ることが望ましい。</p>	<p>その他意見</p>	<p>養成すべき人材像において、学生たちに修得させる能力の一つとして掲げた「異文化に対する親しみと寛容の精神」については、単に英語によるコミュニケーションが可能となるだけではなく、文化・歴史・民族性・習慣・宗教などの違いを乗り越えて、コミュニケーションを行うことができる人材が求められているという認識に基づいている。このため、主に海外からの留学生との共同生活や海外留学の体験を通じて、このような能力を修得するが期待されている。認可時の計画には、上記の説明のみを記載し、カリキュラムにおける教育効果については十分な説明がなされていなかった。上記に掲げた異文化に対する理解を学問的な観点から深めていくことができる授業科目としては、各科目区分の中に「グローバルな視点」や「比較研究の視点」から主専攻の分野について学ぶ授業科目を配置している（例えば、「世界の英語（World Englishes）」、「世界の宗教（World Religions）」、「グローバル政治（Global Politics）」、「比較政治体制（Comparative Political Systems）」、「グローバル化の社会学（Sociology of Globalization）」、「比較文化研究（Cross-Culture Studies）」など）。これらの授業科目では、異なる文化圏に対する理解を深めるという視点が当然に提示されることになることから、学生たちにはこのような授業科目の履修を通じて、学問的な意味においても異文化に対する理解を深める機会を提供する計画となっている。（27）</p>	<p>異文化社会を学ぶ機会を提供する授業科目の新設によって、カリキュラムをより充実したものとすることが可能となるように、今後も検討を続ける予定である。（27）</p>
---------------------------	--	--------------	--	---

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 教育課程等の概要に記載している科目の配当年次と履修モデルに記載してある履修時期に整合性が取れていない部分があるため、いずれかの記載を修正するとともに、科目によってはゆるやかな年次配当についても検討することが望ましい。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>本学では、「アカデミック英語B (English for Academic Excellence (EAE) : B)」を必修科目としており、入学時点で非常に高い英語力を有する学生については、第1年次の後期から他の科目区分に配置されている授業科目の履修が可能になる。このようなカリキュラムの設計に基づいて、主専攻分野の入門的な授業科目については、第1年次の後期以降から履修可能となるように配当年次を設定している。このため、英語力を伸ばすために「アカデミック英語A (English for Academic Excellence (EAE) : A)」から履修を開始する学生たちは、第2年次の前期から他の科目区分に配置された授業科目の履修を開始することになるため、第1年次の後期に配当されている入門的な授業科目を第2年次の後期に履修する場合などが存在している。各主専攻分野の入門的な授業科目については、前期配当科目と後期配当科目のいずれを先に選択しても問題のないように配置されているため、現在のカリキュラムにおいても体系的な学修が実現されるように配慮されている。このように、現状でも体系的な学修を損なわない範囲であり、ゆるやかな配当年次となっていると考えている。(27)</p>
---	---	--	--

<p style="text-align: center;">設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>○ リベラルアーツの教育課程において「地理・歴史」分野は欠かせないことから、今後も当該分野において科目開設や既存科目の中で触れられるような機会を設けるなどの工夫を行うことが望ましい。</p>	<p style="text-align: center;">その他意見</p>	<p>リベラルアーツの科目区分の中でも「西洋美術史 (History of Western Art)」「西洋哲学史 (History of Western Philosophy)」など当該分野の歴史的展開を学ぶことでその分野の基礎知識を修得することを目的とした科目を配置しており、既存科目の中で歴史分野を学ぶ機会が確保されるように工夫している。さらに、すでに開設している「人文教養 (Humanities)」の科目区分に「歴史学 (History)」分野として配置されている「世界史 (World History)」「日本史 (Japanese History)」「日本技術史 (History of Technology in Japan)」のほかにも、「地理・歴史」に関する新たな授業科目の新設を検討している。(27)</p>
---	--	--	---

<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>○ 社会科学分野の教員組織体制の質を担保する観点から、政治学関係で増員予定の専任教員について、担当予定科目の特定化等、増員計画の具体的な内容について予め学内で整備すること。</p>	<p>その他意見</p>	<p>政治学分野のカリキュラムの継続性を担保するために、開設3年目(平成29(2017)年度)以降に政治学分野を担当する専任教員の公募を計画している。政治学分野の授業科目については、平成28年(2016)4月に専任教員が着任した後に、公募する専任教員が担当する具体的な授業科目の決定を行うことができるように、検討を進める計画である。(27)</p>
---------------------------	---	--------------	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>・交換留学生の受入れについて (「ア 設置の趣旨及び必要性」「2 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の設置の趣旨及び必要性」)</p> <p>交換留学生に対する授業科目の提供について、認可時の計画では、日本語教育を目的とした授業科目のみを開講する計画であった。このため、他の授業科目については、配当年次に従って年度ごとに段階的に開講されることになり、完成年度にはすべての授業科目を交換留学生に対しても提供することが可能となる体制であった。(27)</p>	<p>・交換留学生の受入れについて (「ア 設置の趣旨及び必要性」「2 国際リベラルアーツ学部国際リベラルアーツ学科の設置の趣旨及び必要性」)</p> <p>本学部の教育においては、第1年次に学生寮で留学生との共同生活を送ることで、第2年次以降に交換留学に出発するまでの間に、疑似的な留学体験を日常的に経験することで、留学に出発するまでの間に、生活習慣の異なる者同士による共同生活に慣れておくことが非常に重要となっている。このため、交換留学生の受入れは、本学部の教育目的を実現するために極めて重要である。平成26(2014)年10月末の認可後、交換留学協定を締結した大学に対して、本学部の設置認可(平成27(2015)年4月開設)と交換留学の開始について通知し、複数の大学から交換留学生の申し込みを受けた。ただ、海外大学でも留学を希望する学生たちは第2年次以降に在籍する者がほとんどであり、日本語教育を目的とした語学の授業だけでは本学部への留学期間中の学修を充実したものとすることは難しく、また実際に本学部で留学している期間に単位互換の可能な授業の履修ができなければ、留学中に十分な学修を継続することが困難な状況に陥ってしまう。このような状況に対応するため、本学部の専任教員と兼任教員、及び兼任講師が担当する授業科目について、開設年度にあたる今年度から開講することが可能な授業科目については、交換留学生の履修を考慮し、開講することとした。なお、授業の開講に必要な施設・設備・備品についてはすでに整備されていることから、交換留学生の履修に向けた授業の開講に際しての支障はない。また、図書等についても、授業に必ず必要となる文献については、開設前年度(平成26(2014)年度)と開設初年度(本年度)に購入する計画としていたことから、授業の実施に支障が出ることはない。来年度(平成28(2016)年度)についても、本年度と同様の措置を採用する計画であるが、来年度にはすべての専任教員が着任することから、交換留学生に提供することができる授業科目の範囲は今年度よりも拡大することができる。また、開設3年目(平成29(2017)年度)以降は、第3年次・第4年次配当の授業科目を当然に開講することになるため、このような特別な措置は必要ないことになる。(27)</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

全学に亘る委員会組織として既設の「ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会」を活用するうえ、平成27年度においては、既設学部と同様に全学一律の取組みである（1）学生による授業アンケート（前期・後期の年2回とし、全科目を対象とする）の実施、（2）授業開放による教員相互の教育方法・内容・技術に関する情報交換の推進、（3）全学的な教員研修会の開催を予定している。

また、国際リベラルアーツ学部においては、専任教員全員で構成する毎月定例の国際リベラルアーツ学部教授会の終了後、引き続き授業方法に関する研究を目的とした「国際リベラルアーツ学部FD会議」を実施するうえ、（a）各教員の持ち回りによる教授方法・技術に関する事例の報告、（b）学生個々の理解度に基づく教授方法等の妥当性の検討、（c）学生の課外の学習を支援するためのLMS（Learning Management System）の活用に関する研究を行うこととしている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全学に亘るFD委員会については、主に前期の学生による授業アンケートの実施方法の確認のため5月27日（水）に開催することとして予定している。国際リベラルアーツ学部からは、ETZRODT, Christian教授（副学部長）が委員として委嘱され、出席予定である。

月例の国際リベラルアーツ学部教授会の終了後、引き続き専任教員全員で開催する「国際リベラルアーツ学部FD会議」については4月17日（金）に開催され、開設直後であることに鑑み、学生の課外の学習を支援するためのLMS（Learning Management System）の活用に関する効率的運用やレポート課題の示し方、学生からの回収の仕方、添削指導に関する利用方法に係る議論や、PC操作を不得手とする教員に対する具体的な利用方法の説明を実施した。この第1回目の会議には、今年度（開設時）就任の全専任教員が出席した。

なお、資料として「ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程」を、別途添付する。

c 委員会の審議事項等

ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会規程第6条において、以下のとおり定めている。

（任務）

第6条 本委員会は、次の事項を任務とする。

- (1) 本学の教育の質的向上に向けた諸施策の企画・立案及び関連する情報の収集
- (2) 教職員の研修に関する企画・実施・支援
- (3) 学生による授業評価アンケートの企画・実施・結果の分析及びフィードバックに関する事項
- (4) 入学時・卒業時・卒業後アンケート等、教育効果を確認するアンケートの企画・実施・結果の分析及びフィードバックに関する事項
- (5) その他、本委員会が必要と認めたこと

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業方法についての研究会
- (2) 教員相互の授業参観
- (3) 新任教員のための研修会
- (4) LMS（Learning Management System）の使用説明会

b 実施方法

- (1) 授業方法についての研究会：毎月学部教授会終了後に「国際リベラルアーツ学部FD会議」として開催
- (2) 教員相互の授業参観：授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時
- (3) 新任教員のための研修会：開設年度は、前年度末の3月30日（月）・31日（火）に実施
- (4) LMSの使用説明会：開設年度は、前年度末の3月30日（月）・31日（火）に実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 授業方法についての研究会：4月17日（金）に開催し、就任済の全専任教員が出席した。
- (2) 教員相互の授業参観：4月17日（金）開催の（1）の研究会の際に、相互に確認した。
- (3) 新任教員のための研修会：全専任教員が出席した。兼任・兼任教員に関しては最初の授業の前に個別に説明を行った。
- (4) LMSの使用説明会：全専任教員が出席した。兼任・兼任教員に関しては最初の授業の前に個別に説明を行った。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

現段階においては、学部開設後1月を経たのみであり、実施結果に関する取りまとめや、係る結果を活用した授業改善への取組みに至ってはいないが、毎月定例で開催を予定する前述（1）の「国際リベラルアーツ学部FD会議」において段階的に実施結果を共有するうえ議論し、速やかに改善に向けた取組みに活用しよう準備を進めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期、後期ともに、第8週目を実施することとして予定している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

既設学部と同様に、教員や学生への公表は、設問ごとの回答分布（数的把握）と自由記述欄の全てとする予定である。また、教員は、授業アンケートの結果を踏まえ、何をどのように改善するかを「授業改善のためのPDCAシート」に取りまとめ、全学生に公表することを予定している。公表に際しては、（1）教員相互の結果参照は本学イントラネット及びLMSの活用を、（2）学生の結果参照は本学イントラネットの活用を、それぞれ予定している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

<p>① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>② 自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表（予定）時期</p> <ul style="list-style-type: none">・平成28年5月1日 公表予定（平成27年度報告書） <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none">・自己点検・評価報告書を刊行し、地域自治体及び地域企業に配布を予定（平成28年6月を予定）・本学ホームページ上に公開予定（平成28年6月末を予定） <p>③ 認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none">・平成28年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審することとして、全学合同教授会及び理事会で承認済。（平成26年3月）
--

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

<p>○ 設置計画履行状況報告書</p> <p>a ホームページに公表の有無 (有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無)</p> <p>b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成27年6月末)</p>
